

## 原研労組第 91 回定期大会決議

### 第 91 回定期大会開催される

9月22日、村松コミュニティーセンターで、原研労組第91回定期大会が開催されました。来賓の特殊法人労連事務局次長、篠原氏からは先に統合が行なわれた学生支援機構（旧日本育英会とその他の法人と統合されてきた）などを例にして、労働条件・処遇などを統合する難しさを述べられ、さらに人事評価制度も含めて原研労組の活動に期待したいと激励を戴きました。

執行部の議案提案では既に議案書に書かれている事柄のほか、放射線業務手当問題について口頭で報告しました。これについて、現在機構は管理区域に入った日数による日額制を提案していますが、それでは、管理区域の外にある原子炉制御室での運転が手当の対象外になってしまうこと、また他方でつまらない用件でも対象者が管理区域に入れば手当がでることになります。「管理区域入域手当」と言わなければならないように、手当の性格は全く変わってしまいます。執行委員会は、「機構が管理区域に入ることにこだわるなら、そんな手当は廃止しろ。」と主張したい表明しました。

提案された議案、第57期の運動の総括と第58期の運動方針、財政関係議案は全て提案どおり可決されました。その他、大会スローガン、大会決議案を採択し、団結がんばろうで閉会しました。

代議員及びオブザーバーからは、研究手当の受給状況について、人事評価制度における個人の評価とグループの評価の問題、評価の割り振りについて、成果非公開の施設利用募集の問題、放射線業務手当の問題、旧JNCとの統合で生じている諸問題、一時金の見直し、超過勤務の問題など発言がありました。内容は後日報告します。

\*\*\*\*\*

### 秋季要求案に事務処理、グロービアの問題など追加を検討！

先に9月21日付けあゆみ速報及び定期大会で、秋季賃金・労働条件改善要求について提案しました。執行委員会は、大会前の分会意見や大会での議論を踏まえ、先の提案に加えて、煩雑な事務の問題、グロービアの問題などについての要求を追加することにしました。

要求の詳細を検討中です。要求に組み込みたい意見をお持ちの方は、執行委員会へお伝えください。

JCO 臨界事故から7年目

9月30日(土)13:30~16:00 東海村文化センター 「2006年9.30茨城集会」

新法人への統合から早1年が過ぎようとしている。新法人の発足に伴い様々な制度を作らなければならないことは仕方がないことではあるが、組織として正しく機能することを目的に作られるべき制度が、十分な検討・交渉もなく旧来の方式の維持だけを目的に押し付けられようとしている。

旧サイクル機構で行われてきた成果主義的人事評価がほぼそのまま7級以上の職員に試行されようとしている。しかし、90年代以降多くの企業で取り入れられた成果主義は、経済産業省の「人材マネジメントに関する研究会」報告書において人件費の削減には効果があるものの、多くの従業員のモチベーションの低下、組織・チーム力の低下を招くことが指摘されている。機能しないことが分かっている評価制度をいまさら機構全体に取り入れるような愚は許されない。

統合の目的の一つである人員削減は、部門単位での運営の破綻を招きつつある。事務処理の合理化により事務軽減が果たされるべきなのに、合理化の典型例であるべきIT化ですら形だけの導入で、逆に負担を増やしている。処理し切れない仕事量に優秀な人ほど精神的に追い詰められていく状況は、職場環境として認められるものではない。

原子力機構は、機構で働く人々の声に真摯に耳を傾け、誠実な議論を通じ、法人として正しく機能し機構にふさわしい優れた研究開発が行える職場環境に改善すべきである。原研労組はここに、その実現に向けて運動していくことを決議する。

2006年9月22日 日本原子力研究開発機構労働組合 第91回定期大会



大会にて挨拶、情勢報告を行なう岩井委員長